

アンケートの質問に対する回答

〈学習面について〉

Q1 英語の授業は英語で行いますか。

A 通常の授業では、英語を使ったり、聞いたりする機会を重視した授業を行う予定です。日本語で伝え方が効果的だと考える場面では日本語を使います。オールイングリッシュで行うことを目的とするのではなく、英語の習得のために効果的だと考える方法で授業を行います。

Q2 期末テストはありますか。模試のような学力を測るテストはありますか。

Q3 年間の定期テストはどのように行われますか。

A 附属中のプログラムでは、プレゼンテーションやレポート、テスト等単元で求める力に見合った方法で単元ごとにルーブリック表をもとに評価をします。そのため、ある時点での学びの評価を行うために全教科で一斉にペーパーテストを行ういわゆる「定期テスト」については実施しない予定です。ただし、基礎学力が定着しているかについては本人や保護者が気になる点かと思しますので、年に1～2回、5教科の実力テストは実施し、基礎学力の定着度合いについては生徒や保護者にフィードバックする予定です。なお、あくまで基礎学力の定着度合いを確認する目的での実施ですので、過度に難易度が高いテストは実施しません。

Q4 総合の時間で、個人とグループでの探究、そして、各教科でもそれぞれが調べたり、考える授業を行うとありましたが、単純に時間が足りるのかと疑問に思いました。それぞれの探究活動はどのようなペース配分で行う予定でしょうか。

A 総合的な学習の時間では、グループで探究を行う「総合探究」と個人で探究を行う「探究ゼミ」をバランスよく実施します。例えば、第1週と3週は「総合探究」、第2週と第4週は「探究ゼミ」等、分けて行う予定ですが、分け方は未定です。また、探究ゼミは個人追究なので、授業時間に追究するというよりは、課外活動の時間等で個人で進めた内容を授業時間で報告会をしたり、ゼミの教員と面談したりすることを中心とした活動となる想定をしています。

教科の授業では、教師による一斉指導が減り、その代わりに調べたり、考えたり、話し合ったりする時間が増えるというイメージかと思えます。

ただ、ご心配されるように、調べたり、考えたり、話し合ったりする方が一斉に教えるより深く学ぶことはできますが時間はかかります。そのため、自分でとことん追究する時間を確保できるよう部活動を設置せずに、放課後は中学校の施設を開放して課外活動の時間とする日課としています。

〈中学校生活について〉

Q5 部活動の試合に出たい生徒はどうすればよいでしょうか。

A クラブチームに所属し、大会に出場することはできます。ただし、種目によっては学校からしか出られない大会もあります。どのような大会に参加可能かは所属するクラブチームにご確認ください。

本校は、中学校体育連盟や各種目の協会に加盟しないため、個人種目であっても学校所属として大会へ参加することはできません。もちろん、部活動も生徒にとっては重要な進路選択の一部となりますので、その点も含めて親子でしっかりと話し合い、後悔のない進路選択をしていただければと思います。

Q6 希望としては、文化祭などは高校生と同じように参加出来たら学校生活も楽しく、部活も見学などさせていただくような少し体験が出来たらよいと思いました。

A 中高合同で実施する行事は計画していますが、西高祭のような大きな行事は初年度からの合同実施は難しいと判断しました。まずは高校のさまざまな行事を観客として参観して、生徒の声を聞きながら、合同で実施したい行事や参加方法を一期生と教員で考え、少しずつ合同開催にする予定です。

また、探究学習を重視していくため、高校部活動への参加は計画していません。その点も含めて親子でしっかりと話し合い、後悔のない進路選択をしていただければと思います。

Q7 制服を見ました。黄色がアクセントになっていて素敵です。こだわりのポイントがあればお聞きしたいです。

A ポイントはいくつもありますので、その一部を紹介します。

①ネクタイとリボンは、同じストライプを基調としたデザイン。中学生の若々しさと華やかさを表現するため、暖色系を配色しました。

②ブレザーは伝統のセーラー服と同じ紺色を基調としました。

③ボタンは在校生が考案したオリジナルデザイン。「中学から高校までの生徒が、より合わさった一本の縄のように団結できるように」という願いが込められています。

他にもいろいろあります。コンセプトと合わせて、後日附属中の web ページにアップします。

Q8 図書館は高校の校舎にあると聞きましたが、今ある図書館に中学生向けの図書が加わるということでしょうか。

A 高校の図書館に少しずつ中学生の本を入れていくことを計画中です。中学生の本を一気に多数入れることは難しいですが、探究学習において信頼できる情報源の一つとなる資料は必要不可欠です。生徒の一人一台端末に出版各社から提供された信頼できる情報を 24 時間いつでもどこでもオンラインで利用できる Web サービスである「ジャパナレッジ school」を導入する予定です。なお、年間 3,300 円の利用料がかかるため、教材費として集金させていただく予定です。

※ジャパナレッジ school：中高生の学習に役立つ辞書・事典、参考書、新書・文庫、地図、統計資料など全 68 種類、1000 冊以上を一括検索・閲覧できる。

Q9 スマホを持たせることは可能でしょうか。

A 西尾高校同様に、校内での使用ルールや校外での使用マナーを守るという条件のもと、保護者との連絡ツールとして申請した生徒については持ち込みを認める予定です。

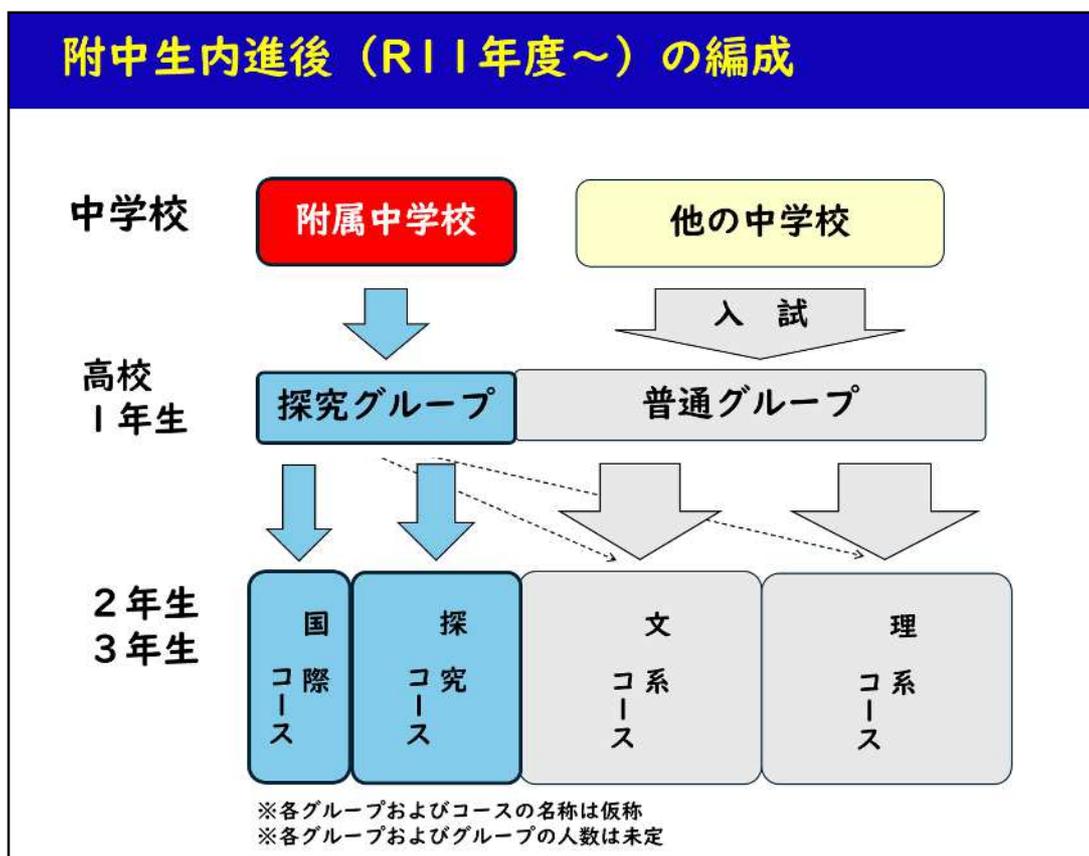
Q10 体操服は西尾高校と同じものを使用すると質疑応答でお答えしていましたが、体育館シューズや上履きはどのようにしますか。

A 体育館シューズは西尾高校と同じものになります。なお、一期生の学年カラーは青となります。上履きについては安全面を考慮して、かかとつきのスリッパを新たに採用するため、西尾高校とは別のものになります。

〈附中生内進後の高校について〉

Q11 日曜の説明会での資料（57頁）で中学1年からは探究コースで、進学して高校1年になると、4択出来るということでしょうか？4択とは国際、探究、文系、理系です。資料の点線の矢印がそういう事を示しているのか教えてください。

A 附属中学校の3年間は全員グローバル探究コースに所属します。西尾高校内進後は、高校1年生では、全員探究グループに所属します。そして、高校2年生からは原則、国際コースと探究コースに分かれる予定です。ただし、探究グループの生徒が普通グループの文系コースや理系コースへ進みたいと考える可能性もありますので、その選択肢を設けることも検討しています。



Q12 西尾高校で国際コースを選択し、ディプロマ資格を取得できれば、国外、国内問わず IB 入試を行っているどこの大学も受験可能ですか。

A 国際バカロレア入試で大学に出願する場合、大学の入試要項に必修科目やどの科目で何点取ればよいのか等を明確に学校が示している場合があるため、どの大学でも受験資格があるわけではありません。下記、文部科学省 IB コンソーシアムの web ページに資料がありますので参考にしてください。

<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/entrance-exam/>

受験資格の詳細は各大学の入試要項をご確認ください。

なお、西尾高校の国際コースで実施する科目については未定です。志望大学の IB 入試で指定された科目を受講できない場合もあります。今後、県教委と相談をしながら、どの科目を設置できるかを検討していきます。

〈入学者選抜について〉

Q13 志願理由書に書く探究活動についての内容の具体的な例はありますか。

A 具体例は特にありません。これまで行った探究活動について記載していただきます。

探究活動は小学校の活動として行ったものでも、個人で行ったものでもかまいません。志願者本人が、自らの好奇心に基づいて行った探究活動の経験を中心に記入してください

Q14 志願理由書は何文字程度の記載になりそうですか。

A 今年度の志願理由書のサンプルについては、10月頃に愛知県教育委員会の web ページ

〈<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/aichi-manabi/231226chuko.html>〉に公開される「令和8年度愛知県立附属中学校入学者選抜実施要項」に掲載される予定ですので、公開後ご確認くださいと思います。なお、上記の web ページにある「令和7年度愛知県立附属中学校入学者選抜実施要項」の中に昨年度の志願理由書が公開されています。こちらも参考にしてください。